

平成30年度事業報告

(期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日)

事業概況

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するために、健全な食生活と予防医学に重点をおいた研究、さらに自然との共生を基本に、こころの健康を目指した研究を振興し、もって国民の健康増進と生活の質の向上に寄与する。

公益目的事業として

公1) ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための**研究調査事業**

公2) ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する**助成事業**を実施した。

(事業の内容)

定款の第4条における1、2、3についてはいずれも研究調査事業の具体的内容であり、事業としては1つと考えているため、公1にまとめている。

平成30年度(2018年度)の活動実績の概要は以下の通り。

1. ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究調査事業(公1)

(1)「ひと・健康・未来」の研究調査事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するために、文科と理科の壁を取り払い知のフロンティアとして実施している。この事業は不特定多数の者の利益の増進に寄与することを目的としており、当財団役員が中心的な役割を果たし、その結果を公表している。

(1)－①未来研究会の推進

財団役員を含む科学者と外部の知の交流として、当財団役員の企画により実施している。平成30年度は第33回から38回まで、年間6回開催した。日程、講師、テーマは以下の通り。

●第33回 未来研究会

日 程:2018年4月27日(金)

講 師:小田 裕昭(名古屋大学大学院生命農学研究科 准教授)

テーマ:「時間栄養学-時計遺伝子とメタボリック・シンドローム予防」

不規則な食生活が疾患に結びつくメカニズムが明らかになりつつある。体内時計を意識した栄養学「時間栄養学」について解説。

●第34回 未来研究会

日 程:2018年7月18日(火)

講 師:小長谷 有紀(国立民族学博物館 教授)

テーマ:「モンゴルの食文化」

日本人女性として、初めてモンゴルに留学した経験から、モンゴル遊牧民の家畜の恵みと食べ方の工夫など、食文化について解説。

●第35回 未来研究会

日 程:2018年9月21日(金)

講 師:尾形 哲也(早稲田大学基幹理工学部 教授)

テーマ:「ディープラーニングによるロボットの認知と行動の予測学習モデル」

機械学習の基本と人間の脳に近いディープラーニング(深層学習)によるロボット技術の可能性について解説。

●第36回 未来研究会

日 程:2018年11月22日(木)

講 師:辰巳 明久(京都市立芸術大学美術学部・美術研究科 教授)

テーマ:「ビジュアルコミュニケーションデザインの可能性」

色と形を駆使して叙事と叙情を適宜混淆させることで、読み取れる情報をコントロールしようとするビジュアルコミュニケーションデザインについて、事例を織り交ぜて解説。

●第37回 未来研究会

日 程:2018年12月17日(月)

講 師:江頭 宏昌(山形大学農学部 教授)

テーマ:「在来作物は私たちの暮らしになぜ大切なのか」

地域の歴史や文化、自然に対する知恵を伝えてきた在来作物を再考し、地域らしさや人々の誇りを取り戻すきっかけを生むための活動などについて解説。

●第38回 未来研究会

日 程:2019年2月28日(木)

講 師:福間 真悟(京都大学大学院医学研究科 特定准教授)

テーマ:「Learning Health System のモデル構築」

超高齢・人口減少社会において持続可能なヘルスシステムを構築するために、大規模ヘルスデータの活用を行う新たな疫学アプローチを紹介。

(1)－②市民公開講座の開催

研究の成果をまとめ、市民公開講座「ひと・健康・未来シンポジウム」を開催し、公衆への啓蒙活動としている。開催については当財団役員を含む専門家が関与し、企画から運営にあたっている。参加は自由であり、参加費は無料。平成30年度は3回開催した。状況は以下の通り。

●『ひと・健康・未来シンポジウム2018京都』

開催日:2018年9月16日(日)

会 場:上七軒歌舞練場

テーマ:「物語はどうつくられるのか—虚構と現実のはざままで」

後 援:京都府、京都市、京都市教育委員会、京都新聞

参 加:308名

私たちは大小の物語の中で生きている。それがどんな意図で作られるのか。歴史ある会場を舞台に、専門分野の異なる4人の話者によって綴られたシンポジウム。参加者は最後まで熱心に聴講されていた。

●『ひと・健康・未来シンポジウム2018神戸』

開催日:2018年11月25日(日)

会場:日本イーライリリー神戸本社LLホール

テーマ:「ライフステージにおける健康情報の管理

～誰もが健康になれるまちKOBEへ～」

共催:健康創造都市KOBE推進会議、神戸市

後援:兵庫県、神戸新聞社、全国健康保険協会兵庫支部

協力:日本イーライリリー株式会社

参加:122名

健康創造都市KOBE推進会議、神戸市、財団で共催。健診の促進にとどまらず、データを市民の健康づくりに役立てる様々な取り組みが紹介された。2016年4月に福島県須賀川市で実施して以来の、自治体との協力によるシンポジウムとなった。今後も、こうした協力関係を重視したい。

●『ひと・健康・未来シンポジウム2019京都』

開催日:2019年2月16日(土)

会場:ひと・まち交流館京都

テーマ:「共により良く今を生きる知恵、マインドフルネス」

後援:京都府、京都市、京都市教育委員会、京都市社会福祉協議会、京都新聞

参加:260名

ストレス社会を背景に、関心が高まっているマインドフルネスを禅仏教、脳科学、心身医学的視点から解説し、体験をしていただきました。テーマへの関心度が高いこともあるが、演者からの発信も含めたSNSの活用が動員につながり、定員(300名)を超えるお申込みをいただいた。引き続き、SNSの活用を進めたい。

(1)－③成果の公開と出版活動

市民公開講座、未来研究会の成果をより多くの人々に周知する為に平成30年度は4回、機関誌「ひと・健康・未来」を発刊し、講演内容ほかを掲載している。

更に、ホームページ上で開催告知や機関誌のアーカイブをPDFファイルにして公開している。

機関誌の掲載内容は以下の通り。

◆「ひと・健康・未来」17号(2018年6月発刊)

- ・ひと・健康・未来シンポジウム2017京都
「京男を元気にー医療とコミュニティで生き活きとー」
- ・第29回 未来研究会
「対話」から「健康生成」へ
- ・第30回 未来研究会
食物繊維から腸管へのメッセージ
- ・ゴリラレポート「ゴリラの太鼓腹の秘密」

◆「ひと・健康・未来」18号(2018年9月発刊)

- ・ひと・健康・未来シンポジウム2018京都
「人間の家族に未来はあるか?!子育てと介護に希望を紡ぎ出す発想」

- ・スペシャルインタビュー
「お茶の心でおもてなし」
- ・第31回 未来研究会
「京の油商人の、昔と今とこれからと」
- ・2018年度研究助成採用結果
- ・研究助成採用者メッセージ
- ・ゴリラレポート「ゴリラは声を立てて笑う」
- ◆「ひと・健康・未来」19号(2018年12月発刊)
 - ・ひと・健康・未来シンポジウム2018京都
「薬は両刃の剣 上手に付き合って健康長寿！」
 - ・第32回 未来研究会
「愛情ホルモン・オキシトシンと摂食障害治療-再養育療法-」
 - ・第33回 未来研究会
「時間栄養学-時計遺伝子とメタボリック・シンドローム予防-」
 - ・研究助成採用者レポート
 - ・ゴリラレポート「自立のための孤独」
- ◆「ひと・健康・未来」20号(2019年3月発刊予定)
 - ・ひと・健康・未来シンポジウム2018京都
「『物語』はどうつくられるのか-虚構と現実のはざままで」
 - ・第34回 未来研究会
「モンゴルの食文化」
 - ・助成研究発表会・特別講演
「おいしさの構造とその客観的評価」
 - ・研究助成採用者メッセージ
 - ・ゴリラレポート「ゴリラの嫁入り」

(2)「ひと・健康・未来シンポジウム」の調査研究事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究と普及及び啓発事業。
こころ、健康、自然環境の情報の調査研究を行い、普及と啓発を行っている。

(2)－①情報の収集と公開講座の計画

財団役員の科学者を含むプロジェクトにおいて学術情報を収集すると共に他機関の研究者に呼びかけ、知識の普及と啓発を行うためにシンポジウムを計画した。

(2)－②市民公開講座の開催

年1回は、財団の拠点である京都で市民公開講座「ひと・健康・未来シンポジウム」を開催し、知識の普及と啓発を図っている。参加は自由であり、参加費は無料。30年度の開催状況は以下の通り。

●『ひと・健康・未来シンポジウム2018京都』

開催日:2018年7月29日(日)

会場:メルパルク京都

テーマ:「薬は両刃の剣 上手に付き合って健康長寿！」

後援:京都府薬剤師会、京都府、京都市、京都市教育委員会、
京都市社会福祉協議会、京都新聞

参加:140名

現在の超高齢化社会は医学、医療とともに薬物療法の進歩が支えている。医学、薬学の専門家から、薬と上手に付き合って健康長寿を手にするコツについて講演。身近な話題を交えて分かり易く、今後の医療を示唆するシンポジウムとなった。

(2)－③成果の公開と出版

市民公開講座の成果をより多くの人々に周知する為にテーマがまとまった段階で発表者の論文等を集め印刷物として出版している。当該市民公開講座は、前述の平成30年12月発刊の機関誌「ひと・健康・未来」19号において、講演内容を掲載しています。又、ホームページ上で講座の開催告知や機関誌のアーカイブをPDFファイルにして公開している。

(3)海外諸団体との連絡協力のための調査研究事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究にかかわる海外諸団体との連絡及び協力の為の事業。こころ、健康、自然環境の調査研究に関する海外諸団体との連絡及び協力を進めている。

(3)－①海外諸団体との連絡協力

財団役員の科学者を含むプロジェクトにおいて海外研究者、諸団体との連絡と協力を進め、研究者に呼びかけて連絡と協力をを行い、普及と啓発を行うために国際的な研究者によるフォーラムを計画、開催する。平成30年度は、29年度におこなった下記、調査研究テーマについてのまとめをおこない、財団ホームページにおいて情報を公開した。

●テーマと概要

テーマ:『超高齢社会における健康長寿、終末期医療に関する国際共同研究』

超高齢化社会にとって今後重要となる終末期医療に関連する3つの重要なテーマについて国際共同研究を実施した。

概要は①アドバンス・ケア・プランニングの適切な時期に関する調査、②認知症高齢者の終末期のケア・死の質を評価する尺度開発、③身体能力が低下した高齢重症肺炎患者に対する人工呼吸器療法後の転帰、である。また、日台研究の成果を受けて、ポルトガルや米国への研究の拡大を検討する。

(3)－②公開講座の開催

調査研究テーマに関して、数年に1回「国際フォーラム」を開催し、知識の普及と啓発を図る。平成30年度は上記、調査研究テーマの成果をホームページ上にて情報公開したが、国際フォーラム開催には至らなかった。研究の成果は、さらに準備ができたものから、各種学会や専門誌への学術論文投稿などにて公開する予定。

(4) 共同研究と委託研究

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための基礎研究や臨床研究、さらに調査研究などを共同研究や委託研究により進める事業。健全な食生活と予防医学に重点をおいた研究、さらに自然との共生を基本に、こころの健康を目指した研究などを進める研究者と共同研究と委託研究を進める。

(4)－①共同研究と委託事業の推進

財団役員の専門家が上記に関連するテーマについて検討し、本財団の目的に適合する基礎研究や臨床研究を進めている研究者を検討し共同研究又は委託研究を行う。平成30年度は29年度におこなった「肥満による炎症反応に関わる基礎・共同研究」と「少子化対策及び子育て支援」に関わる下記、2テーマのまとめについて、財団ホームページにおいて情報の公開をおこなった。

●テーマ：『糖・脂質代謝異常を惹起する脳内炎症の解明と食品による改善に関する基礎研究』
概要：肥満に伴う視床下部の炎症時には脂肪滴を蓄積したアストロサイトによるミクログリアの活性化が重要な役割を担っている。本研究において、食品成分であるケルセチンが肥満によって誘導される視床下部の炎症を抑制する機能を有することを見出した。ケルセチンは heme oxygenase(HO-1)の誘導を介してミクログリアの活性化を抑制し、肥満に伴う様々な疾患の発症に関与するとされている視床下部の炎症を抑制することが示唆された。

●テーマ：『関係性を生きる力に関する研究』
概要：母親の他者との「関係性を生きる力」が子育て支援へのアクセシビリティや育児ストレスに及ぼす影響に関する実証研究である。他者との「関係性を生きる力」を「前向きに生きる力」、「ほどよい関係性を生きる力」、「自信をもって生きる」などに細分化して実施した。

(4)－②研究成果の公開

共同研究又は委託研究の成果は、ホームページ上にて公開している。また、『糖・脂質代謝異常を惹起する脳内炎症の解明と食品による改善に関する基礎研究』は、次のように学術論文にて公開した。

<成果の公開/論文>

Jihyeon Yang, et al. *Nutrients* ,9(7),650,2017

(5) がんの温熱療法の調査と普及促進

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究のひとつとして、がんの温熱療法の普及促進のための調査と広報事業である。平成 30 年度は役員から、上記事業に関して、実施できる事業提案がなく、おこなっていない。今後、テーマのあり方について継続して協議を続ける。

(5)－①情報収集活動

上記理由にて、平成 30 年度は実施していない。

(5)－②広報活動

上記理由で、平成 30 年度は実施していない。

2. ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する助成事業

(公2)

(1)「食品」、「環境」、「医学」、「福祉」をテーマとする公募による研究助成

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する助成事業。

(1)－①研究助成の申請および選考

上記に関するテーマにおいて、重要な研究であるが科研費等の公的予算がなかなかおられないような研究をサポートしたいと考えている。公募の申請書を元に財団選考委員会が選考する。

2018 年度は公募期間(2018 年 4 月 1 日～4 月 30 日)、選考委員会(2018 年 6 月 29 日)。

2018 年度の応募総数は 484 件であった。採用件数 22 件(食品 5 件、環境 3 件、医学 11 件、福祉 3 件)、助成金総額は 2,101 万円。採用結果は以下の通り。

<食 品>採用件数:5件

「ナノ粒子から見た野菜・果実を生(なま)食する食品機能学的意義の解明」

山崎 正夫／宮崎大学 農学部

「えん下困難者向け魚肉ゲルの物性と機能性に関する研究」

高橋 希元／東京海洋大学学術研究院 食品生産科学部門

「苦味、渋味低減による食品の高嗜好化受諾性強化に関する研究」

梶田 哲哉／京都大学大学院 農学研究科

「耐熱性カビの殺菌条件および簡易同定法に関する研究」

松澤 哲宏／長崎県立大学 看護栄養学部

「ジビエ消費拡大を目指した「美味で」「安全な」低温調理法確立」

木村 善一郎／呉工業高等専門学校 環境都市工学分野

<環 境>採用件数:3件

「身近な自然との関わり合いを決める環境・社会要因の特定
～次世代の「経験の絶滅」を防ぐために～」
曾我 昌史／東京大学大学院 農学生命科学研究科

「東京湾における人間活動の影響とその時間変化ー粒子状物質の輸送過程から考えるー」
鋤柄 千穂／東京海洋大学 船舶・海洋オペレーションセンター

「東南アジア熱帯地域の森林保全における国際社会と地域社会のコンフリクトと将来シナリオ」
酒井 章子／京都大学 生態学研究センター

<医 学>採用件数:11件

「体温調節によって遺伝子発現をコントロールしてヒトの健康を保つ機構の解明」
程 久美子／東京大学大学院 理学系研究科

「老眼発症遅延薬の開発を見据えて:老眼発症メカニズムの解明と老眼モデル動物の開発」
中澤 洋介／慶應義塾大学 薬学部

「粘膜免疫を基盤とした新規アジュバントを用いた経鼻ワクチンによる
抗ホスホリルコリン抗体の誘導と動脈硬化アテローム形成阻害能の検証」
片岡 宏介／大阪歯科大学 口腔衛生学講座

「酒粕トリプトファンが社会的敗北ストレスに起因する痛みと
睡眠障害を改善する脳神経機構の解明」
岡本 圭一郎／新潟大学大学院 医歯学総合研究科

「PARP阻害剤による慢性閉塞性肺疾患(COPD)の予防と進行抑制の研究」
益谷 美都子／長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科

「ウェアラブル電極インナーIoTを用いた生体情報モニタリングによる
食塩感受性のメカニズム解明」
中村 太志／熊本大学 医学部附属病院

「機械学習を用いた歩行時足圧パターン分類による糖尿病足病変形成リスクの層別化」
林 久恵／星城大学 リハビリテーション学部

「爪郭部毛細血管顕微鏡を用いた糖尿病患者教育システムの開発」
色摩 茉衣子／大阪大学大学院 医学系研究科

「がん治療における副作用の克服を目指す研究」

川野 光子／量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所

「機能性食品からのアルツハイマー病先制治療薬の同定」

津田 玲生／国立長寿医療研究センター 認知症先進医療開発センター

「MRI による脳年齢測定を目的とした myelin の体積の計測と可視化」

金澤 裕樹／徳島大学大学院 医歯薬学研究部

<福 社>採用件数:3件

「犯罪・非行からの立ち直りに関する当事者活動の社会的機能に関する研究」

高橋 康史／名古屋市立大学大学院 人間文化研究科

「障害者とは誰か？—障害者手帳をめぐる筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群及び

線維筋痛症当事者の語りから」

野島 那津子／大阪大学大学院 人間科学研究科

「東アジアの大都市圏に居住する先住民族に対応したソーシャルワーク実践モデルの検討

～先住地域から離れて生活するアイヌと台湾原住民の相談実践から～」

Virág Viktor(ヴィラーグ ヴィクトル)／長崎国際大学 人間社会学部

(1)－②研究助成テーマの研究成果発表会の開催

研究助成を受けた研究者が研究成果の発表を行う。発表会には近隣の食品系、環境系、医学系、福祉系の大学を含めた各大学に招待状を送付し、参加費は無料である。

2018 年度は 11 月 10 日(土)メルパルク京都で開催。24 名から研究成果についての発表があった。発表はポスター方式でおこない、参加者全員の投票により優秀発表者を表彰した。更に、助成研究の意義を周知する目的で一般市民を公募により招待し、特別講演会を開催。講演は当財団の伏木理事。150 名の参加があった。当該講演は、前述の平成 31 年 3 月発刊の機関誌「ひと・健康・未来」20 号において、講演内容を掲載している。又、ホームページ上で講座の開催告知や機関誌のアーカイブを PDF ファイルにして公開している。

以上